

## 飛沫感染防止 不安解消を 備品活用、アイデア続々

2020年5月20日

飛沫(ひまつ)感染防止に役立ててもらおうと、大阪の企業が自社の技術や商品を活用したフェイスシールドを開発している。新型コロナウイルスの感染拡大による医療崩壊の回避に加え、接客業や窓口業務に携わる人たちの不安解消を願っている。

手帳カバー製造などのモリシタ(東大阪市高井田西2丁目)は、文具のクリアファイルに使っている素材を活用し、眼鏡やマスクと組み合わせるフェイスシールドを開発した。

4月中旬の社内会議で、新型コロナウイルスで困っている人への支援ができないか話し合い、医療従事者や窓口業務に携わる人たちが使えるフェイスシールドの開発が決まった。

同社が所有する型抜き機械を利用し、穴の位置や切り込み、大きさを調整して約20種類のサンプルを作成。軽量で透明度の高い素材を選び、同月下旬から出荷を始めた。医療現場や工事現場などで幅広く活用されている。口元が見える「透明マスク」の開発にも着手している。



眼鏡やマスクと組み合わせるフェイスシールド  
=東大阪市高井田西2丁目のモリシタ